

機電技術者意見交換会

(第 14 回)

実施日：2010 年 10 月 7 日（木）～8 日（金）

2010 年 10 月 26 日

（社）日本建設機械化協会 建設業部会

(社) 日本建設機械化協会

建設業部会長 川本伸司

社団法人日本建設機械化協会 建設業部会の部会長を仰せつかっている前田建設工業の川本と申します。建設業部会主催の機電技術者意見交換会開催にあたり一言ご挨拶させていただきます。

現在、建設業を取り巻く環境は非常に厳しい状況です。少子高齢化により生産人口は減り、結果税収減・社会福祉費増大をもたらす国家予算は公共事業費を削減せざる終えない状態です。しかも現存社会資本の大半を占める高度成長期に施工された施設は老朽化し、適切な維持管理が必要となっています。また、地球温暖化による気象変動で洪水や渇水が発生する頻度が増え新たな社会資本整備が求められてきています。国際社会の中の我が国の状況も中国や韓国の台頭により東アジアにおける優越的な地位はもはや過去のものとなり、輸出国・物流拠点としての地位を保持するためには空港や港湾施設を国際的競争力保持の観点から緊急に整備していく必要があります。このように社会資本整備の必要性は今もなお高いはずなのに「人からコンクリートへ」という言葉に象徴されるように社会資本整備への支出が税金の無駄遣いといわれるのは残念でなりません。日本という国は過去二度にわたり大きな変革時期を経験してきました。

＊明治維新、積極的欧米の技術を取り入れ社会資本整備を行った時期

＊第二次世界大戦終了後の荒廃した国土を高度成長期を通じ世界に冠たる輸出国とした復興生長時期。

この2つの時期は、誰もが疑うことなく物をつくることでこの国は豊かになると信じていました。ものづくりが日本を世界に冠たる経済大国に育て上げてきましたし、これかも変わらぬことです。建設会社は社会資本を整備します。生産設備や住宅も作ります。仕事が物づくりと直結しています。いまこの物づくりについて、社会の認識が変わってきています。この様な時流のなかで、会社の後輩やこれから建設業に入る人たちにいかに物づくりの大切さや魅力を伝えていくのかということは個々の会社の枠を超え重要なことです。建設業は人が財産です。優秀な人材を建設業に迎え入れるためには建設業に従事することの魅力ややりがい伝えていく必要があります。かつてNHKで放送されていた「プロジェクトX」という番組は、ものづくりの苦労、困難を乗り越える喜びや達成感を表現することで好評を得ていました。建設業の魅力を広く社会に伝える手段としてマスコミは大きな武器となりますが、真逆の論調が多いことは残念でなりません。機電技術者意見交換会は今回が14回目の開催となります。この意見交換会は 人づくりの観点から

＊ 情報活動の場として活用

＊ 建設業各社機電部門の活性化

＊ 機電技術者の地位向上の一施策

を目的としており、まさに会社の枠を超えた意見交換の場となっています。それぞれの所属する会社や従事している仕事・立場の違いはあるでしょうが、自社内での交流とはまた別の成果や刺激が期待できると考えています。二日間という短い時間ではありますが、ものづくりの楽しさを伝えるにはどうしたらよいかという議論を通して機電技術者の横のつながりを深めていただきたいと思います。短いですが、開会の挨拶とさせていただきます。

(社) 日本建設機械化協会 建設業部会
機電技術者意見交換会報告書

目 次

1. 第 14 回機電技術者意見交換会報告	・・・・・・・・・・
2. グループ討議結果	・・・・・・・・・・
3. アンケート集計結果	・・・・・・・・・・
4. 資 料	・・・・・・・・・・
(1) 意見交換会実施要領およびスケジュール	
(2) 参加者名簿	
(3) 実施状況写真	

1. 第14回機電技術者意見交換会報告

2010年10月

■ 背景

これまでに13回の機電技術者意見交換会が行われているが、参加者の感想として

「各社各人が機電職として同じ問題を抱えている」

「同業他社との交流が有意義だった」

「継続的開催を希望する」

等々の意見が多く、それを踏まえて今年度も第14回機電技術者意見交換会を開催した。

■ 討議テーマ

「ものづくりの楽しさをどのように伝えるか？」を各班において検討

課題の抽出・絞込み、その背景整理を行い、討議を実施した。

■ 講演

(社)日本建設機械化協会 施工技術総合研究所

技師長 竹之内博行

テーマ：「現場ニーズに応える施工機械の開発」

の講演をいただいた。

■ 部会発表

各班の討議結果を2日目(10月8日)の午後、建設業部会委員参加のもと発表を行った。

■ まとめ

この意見交換会を、機電技術者の意見交換の場作りとするとともに、本活動を、

①情報交換の場として機能させる。

②建設業各社機電部門の活性化の一助とする。

③機電技術者の地位向上の一施策として役立てる。

と位置づけ、(社)日本建設機械化協会、建設業部会、各社がそれを支援するという
考えで進めて行きます。

以上、まとめを添えて報告いたします。

〒105-0011東京都港区芝公園3-5-8

(仕)日本建設機械化協会 建設業部会長 川本 伸司

事務局 岡田 和夫

TEL 03-3433-1501 FAX 03-3432-0289

2. グループ討議成果 (第1班)

第14回 機電技術者意見交換会 2010年10月7日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第1班

- ・田中 勉 西松建設㈱
- ・片桐 誠 東急建設㈱
- ・住谷 幸虎 東洋建設㈱
- ・堀江 健太郎 大成建設㈱
- ・樋口 直貴 佐藤工業㈱

JCMA 建設業部会

人材の確保

建設業界が存続するためには



これから社会に出る人材を建設業に確保

建設業を取り巻く現状

- 世の中の風潮的に建設物不要の流れ
 - ➡ 公共事業の削減
- 転職が多い
- 日々の業務が忙しすぎる
- 中間層の年代の空洞化
 - ➡ 相談できる人が少なくなっている

どのように人材の確保するか

どのように人材の確保するか



ものづくりの楽しさを伝える

ものづくりの楽しさ

建設業のものづくりの魅力

- カたち(地図)に残る仕事
- 規模が大きい分、達成感も大きい
- 人々の生活が向上する仕事である
- 色々な場所へ行ける、人々と会える
- 若いうちから活躍できる場が与えられる

建設業の魅力



一般社会の人に伝える



新たな人材の確保

(第1班)

ものづくりの楽しさの伝え方

- ・ 業界の実情を伝える
映画の作成 (海猿等)
企業の枠を越えたCM作り (建設機械化協会主催)
- ・ 工事の内容を公開
現場の中を見れるような仮囲いを設置
現場を幅広い層の人に見学してもらう
(見学会のマスメディア等での告知)

今後の展開

- ・ 作業環境の改善
休日取得の強制等 (入札案件の見直し等)
女性が働きやすい環境
- ・ イメージ刷新キャンペーン
清潔感、用語の改定
地域イベントへの参加
- ・ 学生の確保
大学等の説明会で夢を与える
近未来の建造物の展示

最後に

- ・ 人材の育成
育成担当者によるフォロー(仕事面、生活面、精神面)
機電の先輩社員不在の現場の対応

人と人との繋がりが大切

(第2班)

第14回 機電技術者意見交換会

2009年10月7日

テーマ

「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー

第2班

・山下 晋仁	前田道路機
・松原 和文	㈱JFFO
・小野寺 旭	日本道路機
・川田 良秀	大林道路機
・林 孝宣	大成口テック機
・小武方 有輝	鹿島道路機

JCMA 建設業部会

機械担当者とは → ものづくりにおいて重要な部署・役割を担う

機械職の楽しさ

- 運転・操作する楽しさ
- 施工完了後の達成感
- 新技術を指導出来る優越感
- 機械知識(専門知識)を頼られる喜び。
- 新しい機械の設計・製作
- 真夏の施工後の酒が旨い

現状
楽しさが伝わっていない。
↓
ゆえに...

JCMA 建設業部会

【 機電業界 負の連鎖 】

離職者が増える → 若手が育たない → 機械職員の減少
 》現実:道路機械職は楽しさを感じるまでに多くの不満を抱えてしまう《

成長期の不満
(約5年)

- 出張・転勤に伴う生活環境の変化
- 4K(さつ・汚い・危険・コワイ)

自立後感じる不満
(5年目以降)

- コミュニケーションの取れない上司の増加
- 調和性の無さ(他職と協調出来ていない)
- 適正に評価されない
- 地位の低さ

JCMA 建設業部会

改善する為に何ができるのか

～成長期の不満に対して～

- ・若手と協働する。
 - ・手本を示し、苦楽を共に教育する。
- 不安を解消する

～自立後感じる不満に対して～

- ・個人のモチベーションを上げる。
- ・機械職の結束強化(公私共に)食事、飲み、ゴルフ、登山etc...
- ・会社へのアピール(みんなで機電組織を盛り立てる。)
- ・他職と連携する仕組みをつくる。

JCMA 建設業部会

地位の向上・適正評価 → 不満の解消・機械職への定着

【 機電業界 正の連鎖 】

ものづくりの楽しさを伝える人が多くなる。

ものづくりの楽しさを伝えられるフィールドを広げることが出来る。

今後私たちの世代で展開します。

JCMA 建設業部会

(第3班)

第14回 機電技術者意見交換会

2010年10月8日

テーマ

「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー

第3班

- ・上條 宏明 (株)大林組
- ・出口 明 (株)竹中工務店
- ・廣井 康伸 五洋建設(株)
- ・川内 大輔 (株)奥村組
- ・平塚 祐仁 前田建設工業(株)

JCMA 建設業協会

現状

就職希望者が減少傾向にある

原因

- ・ ゼネコンへのイメージが悪い
- ・ 転勤が多い
- ・ 何をするかイメージが付かない

学生に対してアピール

JCMA 建設業協会

学生に対してアピール

- ・ ゼネコンの良いところを伝える
- ・ メーカーと違い多くの機械をみることが出来る
- ・ 工事完了に達成感がある
- ・ 民間事業において立場が高い
- ・ 様々な工種を体験出来る
- ・ 自分の考えで機械や設備をコンサル出来る
- ・ 人々の暮らしに直結している
- ・ 色々な地域に住める
- ・ **ものづくりの良さを伝える**

JCMA 建設業協会

現状

若手機電職員が辞めてしまう

原因

- ・ 入社した後で機電の行く末が見える
- ・ 1年目で機械をいじることができない
- ・ 子会社に入れられてしまう可能性が出てくる
- ・ 働く時間が長い割には給料が安い
- ・ 職員同士暮らしている部屋が近いため心が休まらない
- ・ ゼネコンの未来が明るくみえない

JCMA 建設業協会

若手社員への心のケア

- ・ 小まめに連絡をする
- ・ 他社より良いところを伝える
- ・ 現状辛くてもいつか工事が終わることを伝える
- ・ 人事へ職員の状況を伝える
- ・ 組織で動くことを気づかせる
- ・ **ものづくりの良さを伝える**

JCMA 建設業協会

建設業におけるものづくりの良さとは！？

- ・ 人の暮らしに安心・安全を与えることが出来る
- ・ 充実感・達成感を味わうことが出来る
- ・ 多くの人と協力して作り上げることで感動を共有することが出来る
- ・ 自分のアイデアが採用される
- ・ 他の企業に比べてスケールが大きい

JCMA 建設業協会

(第3班)

どのように伝えるか！？

- ・ 社会に対して広報活動を積極的に行う
- ・ 母校にリクルートに行く
- ・ 業務以外も含めて実体験を伝える
- ・ 機電で開発した機械を社内報でクローズアップする
- ・ 一年一回若手職員を集めて悩みの相談にのる

JCMA 建設業協会

やって見せ、言っ
聞かせて、させてみ
褒めてやらねば、人
動かし。
話し合い耳を傾け承
認し、任せてやらねば
人は育たず。
やっっている、姿を感
謝で見守って、信頼せ
ねば、人は実らず。

山本 五十六

JCMA 建設業協会

優秀な人材が入ってくる
↓
辞めずに人材が育つ
↓
優れた機械、設備が多く誕生する
↓
現場の安全性と施工性、経済性が高まる
↓
機電職の地位向上、
社会的認知度が高まる

JCMA 建設業協会

(第4班)

第14回 機電技術者意見交換会

2009年10月7日

テーマ

「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」

メンバー 第4班

- ・栗田 武弘 大豊建設(株)
- ・川口 博之 (株)鴻池組
- ・清水 雅也 鹿島建設(株)
- ・辻村 武弥 (株)熊谷組
- ・橋詰 亮 (株)フジタ

JCMA 建設業協会

伝えたいこと(仕事・感動・達成感)

ものづくりの楽しさとは？

つくる過程・結果を楽しむ

- ・後世に残せる
- ・同じものがいい
- ・計画し、成果を確認できる時
- ・無事故で施工できた時
- ・思い通り進んだ時(トラブル未然回避等)
- ・作業員から信頼を得た時(トラブル発生時迅速に対応等)
- ・少人数だからこそ期待にこたえられた時

JCMA 建設業協会

どのように伝えるのか

環境はどうか？

建設会社新入社員限定

- ・建設会社に希望する機械・電気が少ない。
- ・離職率が高い。

なぜ？

JCMA 建設業協会

- ・汚職・談合なくす
- ・自然破壊する部分もあるが、社会貢献いい部分もあることをアピール
- ・人それぞれ希望は出し、それとあわせてもらうように会社に協力してもらう。
- ・実際そんなにひどくないことをアピールする
- ・雇い止まりだからこそそれを立て直す魅力(前向きに)
- ・作業員全体を指導するのは、難しいが、作業員も会社員なので土木作業員〇〇さんとかいってアロップをやめてもらう。
- ・うまくアピールを考え実行する。

(近場に一般人が入れられるもの公開されているものを用意する)
(千代田にあるあるパワースターションなど体験する場所を用意する)
(映画「正統の太陽」のような感動できる7ビルが多くある)

・きたない格好で電車にのらない。着替え場所を準備する。

JCMA 建設業協会

これらを解決することにより
世間に建設業界のイメージを上げ
是非、建設業で働きたいという人間を
増やす。

JCMA 建設業協会

入社後、充実感、達成感、満足感を感じ、離職率を下げるには？

- ・現場の環境をよくする(所長)
- ・モチベーションを高める
- 自己満足感のある仕事を与える。



最低限上記をすることができれば、徐々に自分自身で道をひらき、ものづくりにも何らかの形でたずさわっていただける人間が育ち、離職率がさがる。

JCMA 建設業協会

(第4班)

新入社員が増え、離職率が少なくなる。



ものづくりをする人間を確保でき、
仕事をする環境・モチベーションが保てれば、
つくる過程・結果を楽しめる。

(第5班)

第14回 機電技術者意見交換会 2009年10月7日

テーマ
「ものづくりの楽しさを どのように伝えるのか」
～これからの機電技術者のあなたへ～

メンバー	第5班	リーダー
・後藤 啓之	顧問組	
・藤吉 卓也	清水建設㈱	
・栗木 浩一	三井住友建設㈱	
・長澤 太一	東亜建設工業㈱	
・渡邊 賢	戸田建設㈱	
・瀧本 博文	鉄建建設㈱	

JCMA 建設業協会

機電職の現状(不満)

- ・組織としては小さく、少数である
- ・機電業務以外の仕事(何でも屋)
- ・技術開発が少なくなり、活躍の場が減った



会社における地位の低下
(外注でいいんじゃない?)

機電職の地位向上には

- ・組織としては小さく、少数である

～少数精鋭で成果をあげる

機電職の地位向上には

- ・機電業務以外の仕事(何でも屋)

～仕事内容の重要性をアピール

機電職の地位向上には

- ・技術開発が少なくなり、活躍の場が減った

～論文、学会での発表

機電職の地位向上には

- ・少数精鋭で成果をあげる
- ・仕事内容の重要性をアピール
- ・論文、学会での発表



存在感・重要性の再認識



やりがい生まれる(楽しい♪)

(第5班)

機電屋だから味わえる事(仕事・感動・達成感)

- ① 現場に合った最適な設備計画が出来る → 自由度が大きい
- ② 整備した機械が現場で活躍している事 → 愛着が湧く
- ③ 機械のトラブルが解決した時 . プレッシャーからの開放
- ④ 機械の開発が出来る → チャレンジ

どのように伝えるのか

- ① インターンシップの採用
- ② 建設機械ショー (キャンペーンガール)
- ③ 建設月刊誌に『今月の機電屋』の連載
- ④ このプレゼンテーションに学生参加を呼びかける

最後に一言

何だかんだ文句や不満ばかり言っても、実はこんな機電屋が好きなんです。

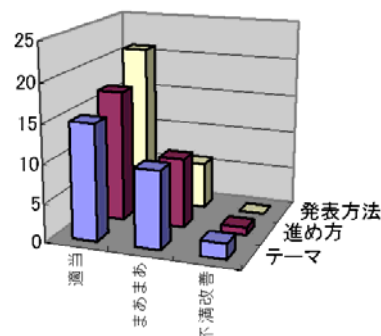
建設業における、機電屋の火を消さないよう宜しくお願いします。

私たちも頑張ります！

3. アンケート集計結果

1. テーマ、進め方、発表方法について

アンケート結果	適当	まあまあ	不満改善
1 テーマ	15	10	2
2 進め方	17	9	1
3 発表方法	21	6	0



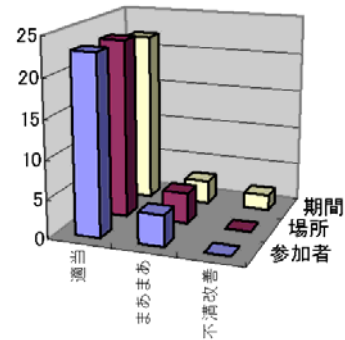
これだけ会社が集まっているので、各工種だけの班を形勢し、技術について情報をまとめてみることも面白そうだった。
今回の「いかにしてものづくりの楽しさを伝えるか」というテーマが広すぎて班毎に捉え方が異なったので、もう少し方向性を絞ったテーマにしたほうが班毎に比較ができて面白いと思います。是非発表に学生が出入りできるようにしてください。
テーマが漠然としていて、戸惑ったが、逆に各社の内情や本音などが聞けてよかった。
テーマが広い意味を持ちすぎていると思った。もう少しテーマを絞ることが出来たら、もう少し深く話し合うことが出来たのではないかなと思う。
仕事の本質について改めて考えることができた
もう少し具体的なテーマ内容の方が検討しやすいのではないかな
「今後機電職が業界内で目指す方向は？」なんてどうでしょうか。
道路会社の人達も混ぜたグループにしたほうがよかったと思います。
事前の連絡に関して、参加費の現金支払いの明記が無かったことと、進め方に際して、終了時に突然作業部会が始まったり(スケジュールには明記されてない)、また受講者まかせな面が多く感じられましたので次回は改善をお願いいたします。
テーマに関しては、漠然としていたが固定して発想にならなくて良いと思った。
テーマについては抽象的すぎて、討議に入りにくかった。
もう少し具体的な行動につながるようなテーマ、例えば今回のテーマでも実際にものづくりの現場に触れてみる機会を協会が開催し、その企画・立案を提案し優秀な提案は本当に採用するなどしては行かないでしょうか？
ものづくりがしたく、この業界に入ったのですが、このテーマでまたそのことを思い出しました。
奥が深いテーマであった。自分の仕事に対する姿勢を見直す良い機会になった。
自己紹介の時間がかかってグループ討議の時間に影響してしまっていたので、自己紹介の最後のページと討論のテーマが同じなら自己紹介の方を削っても良いのではないのでしょうか
2次会まで配慮された懇親会は、非常に良いと思いました。
ただ個人的には、この会合全体の目的が最後まではっきり分かりませんでした。
自己紹介自体は非常に良いが、発表時間5分厳守をもう少し促しても良いのではないかな。また、発表者の紹介から演壇までの移動時間や自分の発表ファイルを探す時間も、前発表者が終了後直ちに移動する、事前にファイル名の最初には番号を入れる等の指示で結められるように思う。司会からの指示はなかったが予定時間のずれは発表者の発表時間を圧迫する。

今後のテーマについて

機電の知名度アップや発展の方法
「技術をいかに伝承させるか？」
テーマが漠然としていて、戸惑ったが、逆に各社の内情や本音などが聞けてよかった。
機電職員のありかたについて
建設業における機電職の役割、建設業の今の問題点
機電技術者の立場(役割)とは (現状を踏まえ、今後改善すべき事など)
「機電技術者の未来」: 今回機電技術者の立場、地位、扱いなどが議論されたが意見は各々異なるが、多くの不平、不満が出た。中でも機電職でありながら土木の仕事をしなければならない何でも屋といわれる立場を不快に感じる人、それを好機と思う人がいたが、どちらが良いのか？と決定するのは難しいと思うがこのようなテーマならぜひ参加したいと思います。
若手社員の機電技術者育成方法
未来の建設機械とは
現場での機電技術者の役割とは？(現状をふまえて現在、今後)
機電技術者の新入社員の育成方法に関して
『建設業における機電職員の役割』について
ゼネコンに機材部は必要か？(機械・仮設材の保有は必要か？)
機電技術者(建設業)の今後の展望について
機電技術者を会社(社会)にアピールするには・・・とか。
建設業界における機電職の役割
今後、機電技術者が果たすべき責務について
建設業(ゼネコン)における機電技術者の未来像
今回はテーマの捕らえ方の点で各班が異なり、発表時にはテーマ対象、方策も個性が出ていて聞き応えがあった。一方で、各班との論点が異なるため全体での議論には至らなかったことから、班毎に異なるテーマ設定としても良かったのではないかな。次回は「建設業の魅力とあるべき姿、その中で我々の成すべきこと」等の範囲と命題を明確にして、全体討議の場で、班にまたがった議論のできるテーマが良いと思う。

2. 参加者、場所、期間について

アンケート結果	適当	まあまあ	不満改善
1 参加者	23	4	0
2 場所	23	4	0
3 期間	22	3	2



グループディスカッションの時間多くとり、より深く議題を追うことができたと思う。
場所と期間に関しては駅から近くて非常に良かったです。参加者の年齢層については若手が多いほうが個人的にいいと思います。
場所、利便性、日数については、適当だと思います。参加者については、30歳代が適当と考えます。期間については、工事量の少ない5月～8月にしていきたい。(舗装会社ですが……)
年齢層が、中堅層が多くその中で若い人もいたので、いろいろな意見が聞け、バランスがよかったと思う。場所は、非常によかったと思う。泊まる部屋も食事満足がいくものだった。2ヶ月以上前から交換会の開催について聞いていたので特に問題なかった。
経験年数に差異がありゼネコン・マリコンが混在していたため様々な価値観や経験談が飛び交い興味深かったと思います。
もう1日あればさらに濃い討議を行えると感じた。4日以上となると人が集まらなくなってしまうと思われる。
2日間は当初長いと感じていましたが、実際に参加してみると丁度良く感じました。
参加人数も多く、20代～40代までと様々な年齢の方と話すことができ良かったです。
とても環境の良い施設であった
1泊2日の期間は適当と思う。当日の朝から出張とできる地方(大阪、名古屋方面他)に配慮して、集合時間を9:30としてほしい。

3. 参加して

アンケート結果	適当	まあまあ	不満改善
1 感想	26	1	0

あまり無い他社との交流を行うことができ、自社とは違う考えや状況、教育方針を知ることが出来てよかった。
他社の機電社員と情報交換ができ、皆現場で同じような苦労をしているのが頑張っているというのが聞けて少し安心した。設計畑の方の話とかは将来のキャリア選択の役に立つと思う。
他社の方との交流が刺激になった。各社同じ問題を抱えていることが分かって良かった。
他社の同じ職種の方が同じような悩みを持っていることが分かり、これからどうすれば良いかの方向性が開けたこと。
建築業者の方や他の舗装業者の方の話も聞くことが出来たので、それだけでも意義があるものだったと思う。
他社の機電職員の状況等を知ることができた
他社の人も同じ問題を抱えていることが分かって良かった。若手の人もしっかりと自分の考え、意見がありそれを聞けることができ刺激された。
同じ機電屋でも別職種の方の仕事内容や生活スタイル、考え方を聞いた事が自分にとってプラスとなった。いい刺激のなり気分もリフレッシュできた。
同世代の機電職の方々と意見をぶつけあう事ができ、刺激になった。
私の勤務年数が1年半と短い中で他社の機電技術者の自分の若い頃はこういうことがあった、うちの会社はこうだといった、という意見を聞くことができ有意義なものでした。また機電職員として少数精鋭と呼ばれるような人材を目指したいとおもいます。
年齢層があるため、色々な意見を聞けて良かった。
同じ悩み、また違った考え方が色々聞け沢山の情報交換ができたこと
他社とのJVにより、土木職の方々とは接する機会が多くあるが、機電同士というのはなかなか機会が無く、有意義であったと思う。
他会社の人と話す機会は、JV構成会社以外ではほとんどないのでとてもよかった。また、機電屋としては、JVでもSP以外の方が配属されることはあまりないのでとてもよかった。
数少ない機電職同士が他社の方と会えて、普段からの不平や不満が同じ事や、仕事に対しての他社との違いなど聞けて大変参考になった。
他社機電職との人脈が多少なりとも増えたことおよび参加者の考え方を知ったことは良かったのですが、テーマ内容と結論に関しては特に目新しいものが打ち出せず、総合的に見て「まあまあであった」と考えます。
同業他社と交流できて良かった。(各自、会社の不平不満ばかりだったが……) これからも技術面等も含めて交流を続けたいと思います。
社内の機電職員が少なくなかなか集まらない中で、他社の機電系の方々と話すことができたことが有意義でした。いろいろ不満も出ていましたが、根底には『ものづくりがしたい』という思いをみんな持っていると感じました。

同世代の同職種の方々と話が出来て大変刺激になった。人脈ができた事も良かった。
他社の機械担当者との意見交換、交流の場になって非常にいい。
同業他社で同世代で集まれる会は今回の様な機会以外には無いと思います。
違う会社の色んな経験をしている人達と交流でき良かった。
こんな大人数の他社の機電職員(社内でもないのに…)と話す機会なんてまずないので、非常に参考になりました。
通常では会うことの無い方々と出会うことが出来ました。見解・人脈を広めるのにはいい機会だったと思います。
同業他社の機電技術者たちが、どのような業務を行っているのか知ることができたのと同時に今後、機電技術者としてすべきことが見えてきた。
同業他社、同世代の同職種の方と意見の交換ができたことは非常に良い機会を得た。他社の状況や意見を聞いて、自分の置かれている状況や不満、部署のかかえている課題や所属会社の良さ・悪さ等の認識を新たにすることができた。

4. 講演会について

アンケート結果	適当	まあまあ	不満改善
1 感想希望等	17	10	0

新しい技術の紹介などがあったら良いと思う。
仕事は遊びの要素がないと成功しないと思ってはいたがその通りだと思う。
異業種の人のものづくりへの思い等の講演も良いかと思っています。
ものづくりの楽しさの代表でもある機械開発についての講演は興味深かった。特に最後の(なぜ成功したのか・なぜ失敗したのか)が聞けたので良かった。先人たちの成功例・失敗例は今後業務を進めるなかで参考にすべき事だと思う。
飛行船のシステムの自動制御の位置管理は非常に興味があり他の分野でも何かに取り入れることができないかと思いました。
結局実用化にたどりつかなかった、たどりついていない開発がありましたらお聞きしたいと思いました。
知らない機械、開発に対しての姿勢、自動化にの原則など勉強になることを聞けてよかった。
もっと、身近な物についての講習があればいいと思う。(たとえばメーカーからの視点からなど)
引続き最新技術トピックを提示して下さい。
いくつかの開発事例を見せて頂き、自分もこういった開発業務を楽しんでやる様になりたいと思いました。
様々な技術情報を得られたので満足している。
ものづくりの楽しさが伝わる
もう一つ位講演があってもよかったと思います。
開発経験の豊富な竹之内講師の成功談、失敗談は参考になった。特に成功・失敗の分析結果は今後の業務の中で注意すべき事項としていく。

5. 今回の意見交換会から得たものを(複数回答可)

	人脈活用	情報交換	個々のレベルup
1 どのように活用できるか	18	25	10

メニュー以外の会話でも、他社の機電の色んな考え方やスタイルなどを知ることが出来た。
人脈活用が一番大きいと思います。現場の飲み会でも不平不満を直接上司には言えずにJV他社の先輩に話すことが多いのですが、他社に知り合いがいるというのは心強いです。
同様の工種でトラブルがあった場合、連絡をとろうと思います。
今後同じ現場で仕事する際の円滑さ。楽しみ。同じ悩みや問題点を話し合えた。同業他社の意見を聞いて考え方の幅が増えた。特に今回同業他社(道路業界)の方と色々な話ができた。仕事の悩み、進め方、今後の展開など。それが非常にプラスになった。
若い世代(20代)、だけでなく20年目を迎える方も多くみられ経験者の意見というのは非常に参考になることが多く他社との違い、同じ思いを持っている部分、機電職の現状などいろいろなことを知ることができ現場で少数となることの多い機電職において土木の分野も吸収できるところは吸収し、機電職員としてだけではなく土木職員としてもレベルアップして行こうと思いました。
施工などの技術的な話から、機電としての職務など参考になる話を聞くことが出来ました。
普段付き合いの無い同業同職の方と知り合えた為、機械の裏情動的な事を意見交換できそう。
公私共に個々の刺激になる。技術的な相談や経験談を聞ける。意見交換を元に刺激になる
今回の人脈を利用して仕事に結び付けていくことは難しいが、同じ機電分野を担っていく者としての情報交換は積極的に行っていきたいと思う。

6. その他の意見

機電屋として、非常に貴重な意見交換ができ、有意義に過ごすことが出来ました。
前回の参加時には、正直、萎縮して討議に参加できていなかった。今回は、同世代で活発な意見交換ができ、非常に有意義でした。また再会できたらいいと思います。
今回のような純粋な集まりは他にないと思うので、参加することができて大変有意義でした。今後も継続をお願いします。
他の班の発表で、この機電技術者意見交換会を一般の方(新卒や一般希望者等)にも公開してはどうだろうかという発表があったと思います。私もこの意見には賛成で、是非いろんな方にこういった業種の様を見てもらいたい機会だと思います。
JVでも他社の機電職員とはなかなか出会う機会もないため、今回意見交換ができ大変有意義だった
同世代の機電職と知り合うことができ、またみなさんの日頃考えている事を知ることができ、非常に有意義でした。機会があれば、ぜひまた参加したいと思いますし、後輩にも参加を勧めていきたいと思っています。どうもありがとうございました。
この意見交換会に参加をし現場でどのようなことに役立てた、または役立ったのか知りたいたいが、今回参加二回目のかたはお一人でしたので可能であるならば、意見交換会参加経験者を数名参加させていただきたい。また自身も参加したいと考えています。
この度はこのような会に参加できたことに感謝いたします。会社は違えどみなさん同じ方向を見ているんだなと感じました。今回得ました経験を同僚にも伝えたいと思います。ありがとうございました。
毎年恒例であるこの意見交換会を受講してみて、普段自分が感じていたことが各社とも同様の悩みや不満を感じていることが感じられました。と同時に各社の共通点を共有することにより、勇気付けられることも多々あり大変有意義でありました。大事なことは、それをどういう風に今後に生かしていくかということであり、現状に対してこれから自分がどう対処していくことだと思います。大変有意義な会であると思いますので、ぜひ今後も継続して頂きたいと思います。
これからもこのような有意義な会は、続けていってほしいと思いました。パソコンの利用については、共通のパソコンであれば問題ないが、各担当の会社がパソコンを持ってくるというのは問題があるように思えた。理由は、各人USBを持ってきているが、ウイルス感染をしていけば、災厄そのパソコンがだめになってしまう危険がある。最低限、ウイルスのチェックをするぐらいはした方がよいと思った。
このような機会に参加して、大変有意義な時間を過ごせました。日頃聞けない、仲間同士の話や機電屋の置かれている立場など、共感できる事がたくさんありました。今後も、この活動を続けていってほしいです。ありがとうございました。
重箱の隅の話ですが、参加費用は会費等の徴収時に合わせて会社への直接請求になりませんか？
これからも継続して交流会を開いてください。
機電職が少なくなり若手だけを集めるのが難しいと聞きましたが、やはり同年代ともしっかり話して見たいと感じました。
建設業における機電屋の状況を知る事が出来、多くの共感や刺激を受けた。また、改めて機電屋の重要性を再認識できた。業界内の機電屋の地位向上を望む。
貴重な良い機会だったと思います。はじめは各社の規模や道路関係等同じ基準では意見が噛み合わないかなとも思いましたが、業界内の機電として根本は同じものがあり、同様の不安や不満を抱えているのが解りました。
強制的にも思える1日目の懇親会(2次会)のおかげで、同じグループの人達と打ち解けた気がします。今後の回でも引き続き行ってほしいと思います。
少数派はいつでもどこでも苦勞するように出来ているのが分かりました。
機電技術者意見交換会が途切れることなく継続して実施されることを期待し、また協力していきたいと思っています。
日本建設機械化協会の活動の一端に触れ、協会の存在意義を再確認することができました。また今回の関係者の方々のご尽力に感謝します。

4. 資料

- (1) 意見交換会実施要領およびスケジュール
- (2) 参加者名簿
- (3) 実施状況

(1)意見交換会実施要領およびスケジュール

平成22年7月13日

各 位 様

(社) 日本建設機械化協会
建設業部会 部会長 川本伸司

第14回 機電技術者意見交換会および講演会のご案内

標記の意見交換会および講演会を下記の要領により開催致します。ご多忙の折、誠に恐縮ですが、意見交換会参加者を選出し、出席させていただきますようお願い申し上げます。

記

1) 開催趣旨、実施要領（詳細は、参加申込者に別途送付します）

期 日 : 10月7日（金）～ 10月8日（土）

テーマ : (仮)『ものづくりの楽しさをどのように伝えるか?』

場 所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

<http://nyc.niye.go.jp/facilities/d7.html>

参加費 : 15,000 円（宿泊・食事代）

※ 当日、領収書と引換に集金いたします。

2) 講演会

講 師 : (未定)

演 題 : (未定)

3) 意見交換会参加者の選出基準（原則）

機電技術者（経験年数 0～20 年前後）

職務経歴問わず

4) 参加者には、自己アピール シート（パワーポイントで）を作成して、発表して頂きます。

概略、以下のような事項について取りまとめて頂きますが、後日、参加申込者宛に事務局より作成要領等を配付致します。

①氏名、所属会社、略歴

②今までに、最も楽しかった仕事（写真）

③今の仕事（写真）

④自己アピール（仕事以外の写真）

⑤テーマに関連した事項で話したいこと

5) 過去の開催実績等

昨年までの、「機電技術者意見交換会」の開催実績は、(社) 日本建設機械化協会のホームページ (<http://www.jcmanet.or.jp>) で閲覧できます。このページで「建設業部会」からリンクできます。

6) 概略スケジュール (案)

【1日目】

09:00～ 集合、オリエンテーション、部会長挨拶

09:30～ 参加メンバーの自己アピール

昼食

12:30～ 自己アピール (続き)

14:15～ グループ討議

18:00～ 懇親会

【2日目】

08:00～ グループ討議 (続き)

10:15～ グループのまとめ

昼食

13:00～ 講演会

14:00～ グループ発表 (3～4枚 PPT.を 15分×5チーム=1.5時間)

表題、グループ番号 メンバー 日付

ものづくりの楽しさ

楽しさの伝え方 (必要に応じ2ページ)

15:30～ 閉会の挨拶・アンケート案内

16:00～ 建設業部会 (連絡事項 他)

7) 参加の申込

参加申込書は、後日事務局より配信致します。

会員の皆様におかれましては、参加者の人選をよろしくお願い申し上げます。

事務局 : (社) 日本建設機械化協会 業務部 岡田

Email : okada@jcmanet.or.jp

FAX : 03-3432-0289

TEL : 03-3433-1501

機電技術者意見交換会スケジュール

第一日(10月7日 木曜日)			第二日(10月8日 金曜日)		
8:30	(受付)	センター棟	8:30	<u>グループ討議</u>	センター棟
9:00		(402号室)			(412,413,507,508,509)
	<u>開会</u> (進行: 幹事長)				
	部会長挨拶				
	オリエンテーション				
	・趣旨説明 ・班編成				
	・スケジュール ・宿泊要領、他				
9:30					
	<u>自己紹介</u>				
	27名×5分/人=135分		10:30	-----	
				成果まとめ、発表準備	
11:30					
	<u>昼食</u>				
12:30			12:00	(昼食)	(会場移動)
	<u>自己紹介続き</u>				
13:00			13:00	<u>講演</u> (部会員出席)	センター棟 (402号室)
	<u>グループ討議</u>	センター棟		講 師:(社)日本建設機械化協会 施工技術総合研究所	
		(408,410,411,412,413)		技師長 竹之内博行	
	<u>グループ内コミュニケーション</u>			テーマ:「現場ニーズに応える施工機械の開発」	
	<u>グループ間コミュニケーション</u>		14:00	(休憩)	
			14:15	<u>成果発表</u> (部会員出席)	
				各グループ発表、質疑応答	
				(発表15分+質疑5分)×5班	
			16:00	(休憩)	
			16:10	<u>全体討議、講評</u> (部会員出席)	
				<u>事務連絡</u> (アンケート、成果送付など)	
				<u>閉会挨拶</u>	
17:00		(各自、宿泊部屋)	17:00	<u>解散</u>	
18:00	<u>懇親会</u>	レストランとき			

(2)参加者名簿

機電技術者意見交換会参加申込者

	班	会議室No.	PC持参	氏 名	所 属	年齢	勤務年数
1		1日:408		田中 勉	西松建設㈱ 機材部 機電課	45	20年
2		2日:507		榎本 孝	東洋建設㈱ 名古屋支店 土木部 衣浦作業所	38	16年
3	1			片桐 誠	東急建設㈱ 土木総本部 機械技術部 機電統括グループ	37	18年
4				堀江健太郎	大成建設㈱ 東京支店 品川線シールド作業所	29	3年
5			●	樋口直貴	佐藤工業㈱ 東京支店 山口トンネル作業所	26	1年
6		1日:410		松原和文	㈱NIPPO 生産技術機械部 機械グループ	36	16年
7		2日:508		山下晋仁	前田道路㈱ 本店 工務部	38	19年
8	2		●	小野寺旭	日本道路㈱ 北信越支店 工事部 機械課	28	10年
9				川田良秀	大林道路㈱ 工務部 機械センター	27	9年
10				林 孝宣	大成ロテック㈱ 関東支店 東京青海合材工場	25	1年
11				小武方有輝	鹿島道路㈱ 生産技術本部 機械部 機械センター 重機・指導課	22	3年
12		1日:411		上條宏明	㈱大林組 本社 機械部 技術開発課	39	15年
13		2日:509		出口 明	㈱竹中工務店 名古屋機材センター	38	13年
14	3			廣井康伸	五洋建設㈱ 土木本部 船舶機械部	35	10年
15				川内大輔	㈱奥村組 東日本支社 九頭竜川定旨シールド工事所	31	5年
16			●	平塚祐仁	前田建設工業㈱ 東京支店 立会川作業所	24	3年
17		1日:412		栗田武弘	大豊建設㈱ 東京支店 土木部 機電課	39	17年
18		2日:412		川口博之	㈱鴻池組 東京本店 機材センター 機電課	38	17年
19	4		●	清水雅也	鹿島建設㈱ 東京土木支店 第二統轄事務所 築地幹線工事事務所	36	14年
20				辻村武弥	㈱熊谷組 関西支店 切目川トンネル作業所	32	10年
21				橋詰 亮	㈱フジタ 建設本部 土木エンジニアリングセンター 機械部	27	4年
22		1日:413		後藤啓之	㈱間組 関東土木支店 土木部 勝どき作業所	39	15年
23		2日:413		藤吉卓也	清水建設㈱ 土木技術本部 機械技術部	37	12年
24	5		●	栗木浩一	三井住友建設㈱ 大阪支店 西山トンネル作業所	36	13年
25				長澤太一	東亜建設工業㈱ 機電部	34	10年
26				渡邊 賢	戸田建設㈱ 機材部 機電課	32	9年
27				瀧本博文	鉄建建設㈱ 東北支店 土木部	31	9年

(3) 実施状況

① 開会、オリエンテーション



② 自己紹介



③ グループ討議



④講演



⑤成果発表、討議
第1班



第2班



第3班



第4班



第5班



質疑



⑥講評



⑦懇親会

